

# TOKIMEKI ときめき

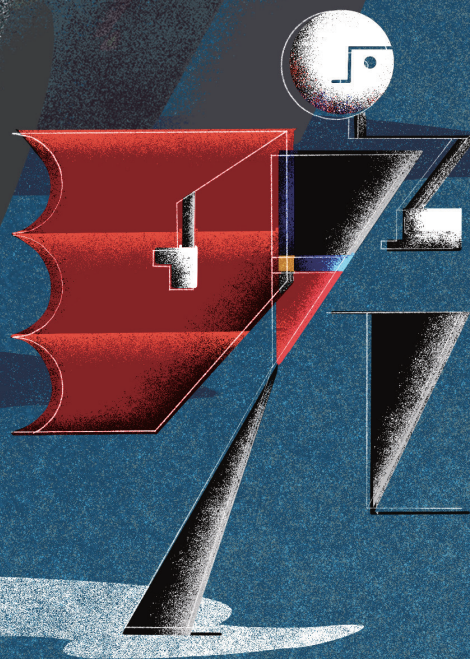
東久留米の男女共同参画情報誌

NO.

70

2023 秋

特集 「男らしさ」を考え直す  
～ジェンダー差別は男性をもつらくする～



## Contents

- 02. ときめきインタビュー やさいのおうち東久留米 榎本義樹さん
- 04. 特集 「男らしさ」を考え直す ～ジェンダー差別は男性をもつらくする～
- 07. 東久留米市第4次男女平等推進プランを策定しました
- 08. フィフティ・フィフティから



「ときめき」最新号とバックナンバーが見られます



# 笑顔の種まき

異色の経歴農家だから見えてきた新しい価値観

やさいのおうち東久留米 代表  
 (東久留米市男女平等推進センター運営協議会委員)

えの もと よ し き  
**榎本義樹**さん

幼稚園教諭から農家へ転身。また2児の父であり、東久留米市男女平等推進センター運営協議会委員としても活躍中の榎本さんに、これまでの経歴と多彩な視点から見た男女共同参画などに関してお話を伺いました。

それでは…まず経歴とご家庭についてお聞きしたいのですが。

今は家業の農家を継いで農薬不使用、化学肥料不使用の野菜を栽培しています。農家を継いで7年目ですが、それまでは8年間幼稚園教諭をしていました。

家族は妻と6歳の男の子、3歳の女の子の2人の子どもがいます。基本的に家事・育児は専業主婦の妻が中心に行っていますが、自分もできることは最大限やりたいと思っています。

幼稚園教諭の経験は子育てに生かされていますね。

幼稚園教諭の資格のほか、保育士の資格も持っているのですが、子どもが幼児期の

間は危ないことにならないよう、保育士目線の危険予測をしていました。幼児期から幼少期に入った後は、個性に合わせた話し方・促し方といった幼稚園教諭の目線で子育てをしていました。これは子どもだけでなく、人とのコミュニケーションでも役に立っていますね。

幼稚園教諭というと女性が多い職場だと思えますが、何か男性として感じることはありませんか？

私が幼稚園で働いていたころは、看護師や客室乗務員などは女性の仕事と捉えられていて、幼稚園教諭もその一つでした。ただ、私自身は姉もいたので小さいころから女性が多い環境に抵抗がありませんでしたし、仕事の内容に男女差も感じませんでした。でも保護者

の中には第一印象で、男性教諭に少し違和感を持たれた方もいるように思いました。まだ「幼稚園の先生＝女性」と思われている方も多く、女性の先生の方が「あれもこれでもできる」というイメージが強かったのかなと思います。ただそれも最初だけで、しっかり仕事をしていく中できちんと評価をしていただけだと感じています。

それと、年中から年長に進級してきた女の子は、年中まではお母さんみみたいな女性の先生だったのに、年長になって突然男性の先生に担当が代わってギャップを感じる子が多かったんです。なので、まず自分のことを好きになってもう努力をしました。髪の毛を結んで編み込みもできるように練習したり。そうすると女の子たちは思っていたより優しい」ってなるみたいで、むし

る女性の先生よりも私の方が優しいと思っていたんじゃないかな。

子どもたちに受け入れてもらうために、いろいろな努力をされていたんですね。なぜ幼稚園教諭になったのですか？

きっかけは小学2年生から習い始めたピアノでした。そのピアノ教室で1つの間にか自分より小さい子たちをサポートするような機会が増えて、下の子たちの世話をするのが好きになってきたんですね。ピアノも好きですと続けたいし、子どもも好きだし、その好きなこと両方をできる幼稚園教諭に就きたいと思うようになりました。中学2年生のときです。

そこから一転して農家を継がれたのはどうしてですか？

わが家は祖父や父が農家だからといって、私にも無理に継がせるという家ではありませんでした。教育方針はどちらかと言えば自由な家風で、やりたいうことをやらせてもらえました。ですから、初めは農家を継ぐとは思っていませんでした。妻に対しても家が農家だからといって農業をやってねとは思っていないです。

ただ、実家が農家だった影響は幼稚園教諭のころからあって、給食のときにごどもたちの好き嫌いだったり、どんなものを食べているのかが気になったり、食育について興味がありました。

私が働いていた幼稚園ではお泊り保育があって、そこではカレーやハンバーグを作ることが多かったんですが、アレルギーで食べられないごどももたくさんいました。そういう子の親御さんと話をすると、食に関する不安があるんだなということを感じました。そういう



インタビュー風景（榎本さんと編集委員）

たことが重なり「ごどもたちには健康に良いものを食べて育てほしい」という気持ちが大んだんと強くなって、農家を継いで体に良いものを提供したいと思うようになりました。

農家になられて、一番やりたかったことは何ですか？

まずやりたかったことは、やはりオーガニックな野菜を育てて提供することと、畑で開催する子育て世代に向けたイベントの集客でした。周囲の農家の人たちからは、農薬不使用の野菜を栽培することは難しく、不可能だと言われていました。ですが「そのような野菜を求めている方に向けた野菜を提供する」という強い思いで取り組み始め、試行錯誤の末にその思いを実らせました。今では野菜を近所の農協だけでなく、駅前の野崎書林マルシェや近所のスーパーのほか、銀座の歌舞伎座などでも販売しています。また、インスタグラムを活用しているのですが、DM（ダイレクトメッセージ）では特に20〜40代の女性に好評をいただいているので、今後より幅広い人たちに知ってもらいたいと思っています。

それでは最後に、男女平等推進センター運営協議会委員として一言いただけますか？

男女平等推進センター運営協議会（以下、運営協議会）では、センターのあり方や、市が取り組む男女共同参画について協議しています。センターはさまざまな悩みを抱えた女性が安心して相談できる安全な窓口です。こうした社会に重要な施設を、市や組織が大切にしていくことの必要性を発信してい

くことや、講座などの男女平等推進センター事業を活用して男女共同参画の正しい理解と認識を深める学びの機会をサポートを続けていくことが運営協議会の役目です。今年度は新たな取り組みとして富田市長と運営協議会委員で懇談を行いました。市長が考える男女共同参画や前号の「ときめき」69号のインタビューの中でおっしゃられたご自身のご家庭におけるアンコンシヤス・バイアス（無意識の思い込み）やさまざまな考え、今後の発展に向けたアイデアを聞いたりしながら、対話をきっかけに今後も一緒に考えていけるようになれば良いと思っています。また「ときめき」は、市民に向け、男女共同参画について広く知っていただくきっかけになっていると思います。これからも運営協議会とときめき編集委員がお互いに情報を共有していけたら良いですね。

今ある社会にそれぞれが無理をして合わせるのではなく、それぞれがその人らしくより良く生きやすくなれたらと思っています。また、個々の持つ問題や課題はそれぞれ感じ方も違い、それを受け取る側の考えもそれぞれで違うことも理解しなければならぬと考えています。そのためには、市や市民、事業者が連携して協力し、一緒に考えたり悩んだりしながら問題や課題に取り組むことが必要ではないでしょうか。

※男女平等推進センター運営協議会  
センターの事業計画及び運営に関して検討する  
(センターの運営に市民の意見を反映)

今回は榎本さんのお仕事を通しての考え方や男女共同参画についてお話を聞きました。幼稚園教諭を経験したからこそその優しさやお人柄を、インタビュー記事を通して皆さんにも感じただけなのではないでしょうか。今号には掲載できませんでしたが、榎本さんご夫婦のスマホアプリを活用したコミュニケーションの取られ方なども大変勉強になりました。今後も農業や運営協議会委員としてのご活躍に期待します！  
(丁)



# 「男らしさ」を考え直す

～ジェンダー差別は男性をもつらくする～

男女共同参画、ジェンダー平等の実現に向けた思考・情報のなかには、当然ながら「女性問題」と表裏一体の「男性問題」も存在します。男性が男性であるために困っている問題は何なのか？今号では、特に男性にとって社会的な抑圧となっている「男らしさ」について特集します。

## 男性も女性も生きづらい？！

今年も『ジェンダー・ギャップ指数』\*が発表されると、各種メディアで大きく報道されました。日本は146カ国中125位(昨年116位)。過去最低を更新したわけですが、では男性側が「自分たちが社会の中心である」「優位な立場にある」と感じているかといえば、ほとんどの男性は否定するでしょう。逆に「日本は女尊男卑だ」といった言説もネット上などには散見され、「弱者男性」の生きづらさが語られています。男性の自殺者数は、女性の約2.1倍といった数値も、男性の生きづらさの指標としてよく取り上げられます(日本の自殺者は先進国(G7)の中でトップ、女性の自殺率も比較的高い)。

もちろん、自殺者数から何がわかるなどは軽々に語れませんが、男性のほうがさまざまな問題を抱え込みがちであることは推測できます。

日本で初めての「男性悩み相談窓口」開設(1995年)に携わった濱田智崇さんの著書『男性は何をどう悩むのか 男性専用相談窓口から見る心理と支援』(ミネルヴァ書房)には、心やからだの問題、人間関係の問題など、多くの悩みをようやく相談できた人たちの姿が描かれています。そして著者は言います。

“男性の悩みは多岐にわたりますが、そこに共通する男性特有の「悩み方」のようなものが見えてきます。男性が従来の「男らしさ」すなわち男性ジェンダーに縛られる。あるいはそれが現代の価値観と齟齬を起していることから、多くの悩みが生まれていると考えられます。

従来の「男らしさ」が、どのように人(特に男性)を縛っているかは、内閣府の調査からも見えてきます。いずれにせよ「男性は～べきだ」という意識は、女性よりも男性自身が強く持っているようです。こうした結果は、年代差や地域差も大きいかもしれません。

では、東久留米市の男性はどうなのか？同じ地域で生きる身近な人たちの意識がわずかながらも浮かびあがれば…と思ひ、編集委員で独自アンケートを実施しました。各問に設けた自由記述欄には、日頃あまり口にする事のない思いを書いていただけたように感じます。ご協力ありがとうございました。(H)

\*ジェンダー・ギャップ指数は国際機関「世界経済フォーラム(WEF)」が2006年からほぼ毎年発表している世界各国の男女平等度を示す指数

### 性別による無意識の思い込み

#### ●性別役割意識が強く働いた項目

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

1位 男性は仕事をして家計を支えるべきだ  
(男性48.7%、女性44.9%/男女ともに1位)

#### ●性別役割意識で男女差が大きかった項目

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計

1位 デートや食事のお金は男性が負担すべきだ  
(男性34.0%、女性21.5%)

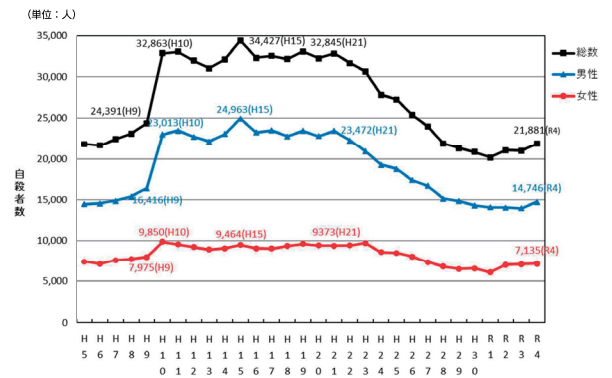
2位 男性は結婚して家庭をもって一人前だ  
(男性30.4%、女性17.9%)

3位 男性は人前で泣くべきではない  
(男性28.9%、女性17.6%)

令和4年度「性別による無意識の思い込み」に関する調査(内閣府男女共同参画局)より



### ■自殺者数の年次推移

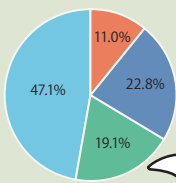


【出典】：警察庁「令和4年中における自殺の状況」

### 編集委員が 身近な男性にお願いしました

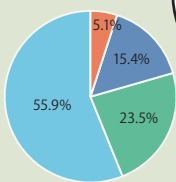
問1  
男性は結婚して家庭を持って一人前だ

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」33.8%  
内閣府調査(前出:男性30.4%)より少し多め

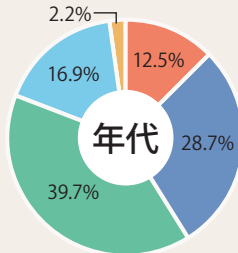


問2  
家業やお墓は男性が継承するものだ

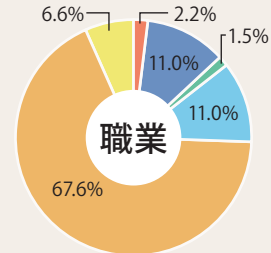
「そう思わない」が、過半を越えて55.9%  
「そう思う」も5%!



●そう思う  
●どちらかといえばそう思う  
●どちらかといえばそう思わない  
●そう思わない  
●未回答



●10・20歳代  
●30歳代  
●40歳代  
●50歳代  
●60歳代～



●学生  
●会社員  
●アルバイト・パート  
●自営業  
●公務員(市職員)  
●その他

期間  
2023年6月16日～28日  
対象  
東久留米市在住在勤の男性  
10・20歳代～60歳以上  
(既婚66.2%、未婚33.8%)  
計136人  
※編集委員が行った独自のアンケートであり、東久留米市の公的調査ではありません。

# 東久留米市在住在勤の男性に「男らしさ」（性別役割意識）について聞いてみました

誌面に掲載しきれなかったアンケートの回答は市のHP（『ときめき』70号のページ）でご覧いただけます。



先祖代々継いできているのが長男であり、私自身、長男であるその席を受け継ぐものであるため

（40歳代）

## 問2

家業やお墓は男性が継承するものだ

## 問1 男性は結婚して家庭を持って一人前だ

家族を養っていく経済力、包容力、責任感は男性にとって必要だと感じるから（30歳代）

- 男性に限らず女性も結婚して学ぶこともあると思う（40歳代）
- ◆今のご時世、結婚しなくても同棲という形で事実婚状態である男性もいることや、家庭を持つ＝一人前という考え方は裏を返せば、経済的事情等で止む無く家庭を持つことをためらっている男性に対して失礼だから（30歳代）
- ★個々の生き方の問題で、家庭を持っていることが理由とはならないと考える（50歳代）

- タイミングや状況によると思うが、後でもめないために事前の順番付けは必要だと思う（40歳代）
- ◆これだけ子が少ないと家業やお墓は負の財産。やりたい人がやればよい。（男でも女でも）直系がいない、継げないなら処分した方がよい（50歳代）
- ★家業については女性が継承することも徐々に増えていると感じており、また、今後は性別をこえた視点による事業展開が必要となっていくと思っているため。墓については男性限定で継承する必要性が全く見出せない（30歳代）

- 婚姻する女性の90%以上が夫の氏を選択する（させられる）現状は明らかに不公平です。夫婦別姓がみとめられるべきです（60歳以上）
- 私自身はどちらの姓でも構いませんでしたが、両親に抵抗があったことから、自分の姓を継いでいます。柔軟な考え方は、世代が交代しきらないと難しいのかもしれない（30歳代）
- ◆個人的には、ただ、相手も同様の考えであればお互いに納得いくよう審議する（40歳代）

男が姓を変えるのは考えられない（★60歳以上）

名前よりも大事なものがそこにはあると思う

## 問3

相手の希望によっては相手の姓になってもよい（よかった）

（10・20歳代）

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- ◆どちらかといえばそう思わない
- ★そう思わない

同時作業が得意な女性のほうが適正があると思うため（40歳代）

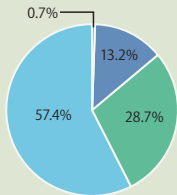
- 専業主婦なのか否かで状況は違う。共働きなら男も家事すべき。育児は2人の子なので両方すべき。介護は自分の親は自分がするのがよいかと思えます（30歳代）
- ◆近年は働き方が多様化（在宅勤務）している上に女性の職種や社会的地位も多様化してきており、女性の方が仕事面で多忙となる事も大いにあり得る。「男性が外で仕事をして女性が家事・育児・介護を行う」という事が必ずしも得策であるとは言いきれないため（30歳代）

## 問4 家事・育児・介護は、女性がしたほうがよい

自分は家事や育児が大好きだから。女性だけがするものではない、自分もやりたい（★40歳代）

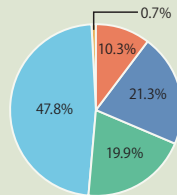
## 問7

女性は、産休・育休をとる可能性があるから重要な仕事は任せられない  
「そう思わない」が57.4%  
完全否定派が過半数に！



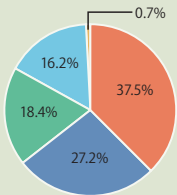
## 問5

家計の大半は男性が支えるものだ  
「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が67.7%  
柔軟に考えたい男性が多数派！



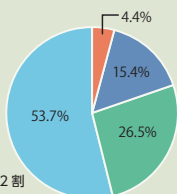
## 問3

相手の希望によっては、相手の姓になってもよい（よかった）  
「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が過半数を越えて64.7%  
年代差より個人差が目立つ傾向



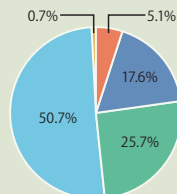
## 問8

育休をとる男性は、昇進その他で不利になっても仕方がない  
「そう思わない」が過半の53.7%だが、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」も約2割



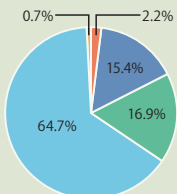
## 問6

男性は私生活より仕事を優先するものだ  
「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」が76.4%  
ワークライフバランス派が優勢！



## 問4

家事・育児・介護は、女性がしたほうがよい  
「そう思わない」が圧倒的多数81.6%  
性別役割意識がもっとも少なかった！



問6 男性は私生活より仕事を優先するものだ

# 当たり前！

(●40歳代)

- 男性・女性に限らずあまり無責任にならない程度に楽しく生きてほしい (50歳代)
- ◆ 私生活より仕事を優先するかは当事者の判断ですが、男女の区別はないと思います (40歳代)
- ◆ 誰でもワークライフバランスを優先するものだ (10・20歳代)
- ★ 私生活の充実により、仕事の能率やモチベーションが上がると考えており、心の安定のためにも仕事より優先すべきものがあると考えているため (30歳代)

# 自らに課す 生涯のミッション

(■40歳代)

問5 家計の大半は男性が支えるものだ

- 部署によっては9時、10時まで働くことが常態化しており、女性にすすめたいとは思わない (40歳代)
- ◆ 夫婦ともにいる世帯を想定しての質問と思うが、「誰かが何かを担うべきだ」という考え方に違和感がある (40歳代)
- ◆ それも、可能であれば折半である (40歳代)
- ★ 働いていてそんなにすぐ収入が増えるわけでもないし、今の世の中、女性とあまり収入は変わらないから (10・20歳代)
- ★ 生活していく収入を得るために、両方で稼いだほうが、生活が潤うと考える (50歳代)

# 合理的な理由がある

(●40歳代)

## 任せる立場で考えると

問7 女性には、産休・育休をとる可能性があるから重要な仕事は任せられない

- 仮定の話になるが、中小規模の組織では、相手都合の仕事の場合、予定がわかっていても代行者を探す必要に迫られる。こちら都合の仕事の場合は予定がわかれば対処できるので重要な仕事も任せられる。このように答えると猛批判を浴びることはわかっているが、任せる立場で考えると合理的な理由がある (40歳代)
- 職務やタイミングにもよるかと思いますが (40歳代)
- ◆ 業務分担を見直すべき (30歳代)
- ★ 自分がもし経営者だったら、重要な仕事は一人の人に任せないような体制にしたいと思う。そこに性差はない。(40歳代)
- ★ 重要な仕事を任せられない理由として理解できません。(40歳代)

全員が取得できれば理想だと思えます  
未婚男性や子どもがいらない既婚男性で  
頑張っている方の不公平感を取り除くことは課題になると思います

(★40歳代)

問8 育休をとる男性は、昇進その他で不利になっても仕方がない

# 休まず働くのが男である

(■40歳代)

- 現場を離れる分、対応力や知識で後れをとるから。純粋に能力で比較すれば不利益が生じるには仕方がない (30歳代)
- ◆ 業務分担を見直すべき (30歳代)
- ★ このようなことが起きると子どもがより減っていく一方だと感じた (10・20歳代)
- ★ 育休をとっても仕事・役割を全うする人こそ真に昇進するべきである (10・20歳代)

男女平等推進センターで貸し出しをしています

## 「男らしさ」を考え直すヒントに!! おすすめの本



『男がいたい!』 資本主義社会の「弱者男性」論  
杉田 俊介/著 2022年 ワニブックスPLUS新書

自由を感じることができない弱者男性に送る本。男性は無意識のうちに差別に加担していると言われる。その中に資本主義・自由主義に見捨てられた弱者男性が存在する。何が精神的に自由なのか、何が敵なのかを作者のカタルシスより学んでみてはいかだろうか。個人的には作者の意見を「まえがき」「あとがき」から知り、中年の生き方で生きる方法を見つける流れで読まれることをおすすめする。(T)



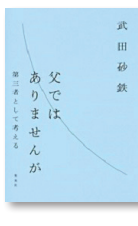
『不自由な男たち』 その生きづらさは、どこから来るのか?]  
小島 慶子・田中 俊之/著 2016年 祥伝社新書

「俺の人生、何?!」とならないために…  
「お父さんは強いんだぞ」これは昔からよく聞く言葉…でもそれ本当? 週5日1日8時間以上働く会社員を40年近く続ける…男だから、お父さんだからそれが当たり前? 男が弱くたっていい。もっと色々な働き方をしたっていい。誰もが自由に、どんな生き方も選べる社会が一番豊かな社会だと気づかせてくれる対談集。(N)



『非モテ』からはじめる男性学  
西井 開/著 2021年 集英社新書

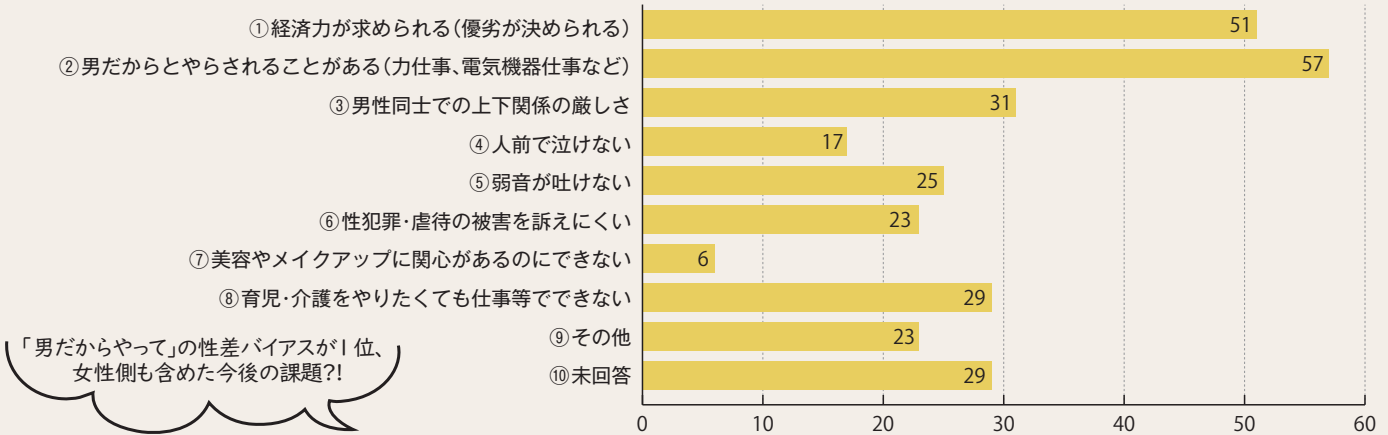
「非モテ」という苦悩を抱くまでの過程を掘り下げ、問題の背景を男性学の視点から解き明かす。当方40代独身女性である。本書は「非モテ」男性のエピソードが引用されているが、共感する部分も多く興味深い。「非モテ」とは単に容姿や経済状況ではなく現代社会の構造が生み出しているのでは。いやはや、人間の業は深いものだ。(M)



『父ではありませんが』 第三者として考える  
武田 砂鉄/著 2023年 集英社

〇〇ではない人は当事者じゃないのか?しかし「第三者としての当事者」なのではないかと、日常のできごとから考えるコラム。語り口はやわらかいが、「普通」を押しつけてくる人や言葉に対して、徹底的に抗う鋼のような硬さがある。自分に対して延々とダメ出しし続けてしまう人に読んで欲しい一冊。(W)

問9 男性だから不利なこと、押し付けられていると思うことはありますか？あてはまることをすべて選んでください。



「男だからやって」の性差バイアスが1位、女性側も含めた今後の課題?!

<選択した項目について>

- ・男性である以上、力仕事を頼まれる事についてはある程度は理解できるが、それでも人間である以上やはり限度はあると思っている。想像以上に重量があり運搬が困難な荷物の取扱いに苦慮している時や怪我や体調不良で荷物を運べない時に「情けない」「軟弱」「男のくせに」等と罵られることがある～後略～ (30歳代 / ②選択)
- ・経済力による優劣とは別に、常に一定以上の収入を得続けること、「やめないこと」が求められる割合が強い。またそのため、人生でのチャレンジ(転職や現職での新しい取組み、副業、学び直し、長期のボランティア活動等)にハードルがある～後略～ (40歳代 / ①⑨選択)

- ・駅や混雑した中でベビーカーを押していても、お手伝いの声等かけてもらったことがない。むしろ、男性ゆえに文句を言われた経験がある (50歳代 / ②③⑧⑨選択)
- ・～前略～職業別収入ランキングや、結婚時の収入ボーダーみたいなのは、メディアで報じる必要はないと感じる。単純に不快 (20歳代 / ①⑨選択)
- ・常日頃感じている「男性だから不利なこと」を挙げるとすれば、公衆の男性用トイレについて挙げさせていただきたいです。公共施設の大便器や手洗い器は、女性用に比べて男性用は少ない傾向にありますが、通勤時にトイレに寄るとたいい大便器ブース前に大行列ができており、腹痛で駆け込んだ時は辛い思いをします～後略～ (50歳代 / ⑨選択)

特集まとめ

これまでの「ときめき」では、女性視点からの男女共同参画にかかわる特集を多く組んできました。しかし、今の日本における格差や少子化、ワーク・ライフ・バランスなどのさまざまな問題は男女共に抱えていることであるため、今回は視点を変え、「男らしさ」という概念をキーワードに、男性が感じる差別や問題点をまとめてみました。

今回最も感じたのは、意識と実態とのギャップです。日本の社会ではリーダー層の大半を男性が占め、その価値観で経済が成長しやすい制度が作られてきました。「男は仕事、女は家庭」という昔ながらの性別による役割意識が存在する実態の一方、今回男性の方々に回答していただいたアンケート結果では、問4(家事・育児・介護は、女性がしたほうがよい)、問6(男性は私生活より仕事を優先するものだ)のような質問に対して7割前後の方が「そうは思わない」という回答をされています。多種多様な生き方、ジェンダー平等という認識が拡がりつつある今、昔ながらの性別役割分担を当然とは思わない男性も多数いるということが分かりました。

改めて「男らしさ」とは？つらくても弱音を吐かずに働き続けること、いつも強くいること、女性や家庭を守ること……。 「男らしさ」という価値観に縛られず、すべての人が自分らしく生きることのできる社会を一緒に作っていきませんか。(N)

「東久留米市第4次男女平等推進プラン」を策定しました

男女共同参画社会とは、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」とされています。

東久留米市では今年の2月にさらなる男女共同参画社会の実現を目指し、男女共同参画に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、計画期間を令和5(2023)年度から令和9(2027)年度とした「東久留米市第4次男女平等推進プラン」を策定しました。

本プランに掲げた基本理念「互いの人権を尊重し、個性と能力をいかし、ともに参画するまち 東久留米」を実現するためには、市、市民、事業者が連携し、協力していくことが不可欠です。引き続き、皆様のご理解とご協力をお願いします。

\*「東久留米市第4次男女平等推進プラン」については次号(令和6年3月末発行『ときめき』71号)の特集で詳しくお伝えします。  
\*「東久留米市第4次男女平等推進プラン」と概要版は男女平等推進センター及び市政情報コーナーで閲覧できます。また市ホームページからご覧いただくこともできます。



「東久留米市第4次男女平等推進プラン」はこちらからご覧いただけます。

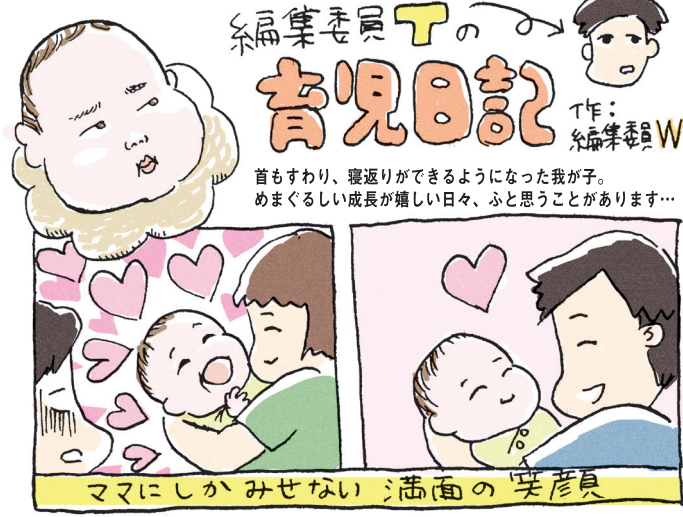


育児日記を読んで (N委員の場合)

初めての子育てのとき、うっかりするとグチャツと壊してしまうんじゃないかという怖さがいつもあって、赤ちゃんがただ泣き止まないだけでも不安でたまらなくて……。そんなときに、夫が帰ってくると、ほんとにホッとしました。家の中に、一緒に考えられる大人が自分以外にいる、っていうことがものすごい安心感でした。

「夕飯作れなくてごめん」「片付いてなくてごめん」「お弁当買って来たよ」の言葉も、家事を二人で協力している様子や、お互いを気づかっている様子も伝わってきて、うちの夫婦も、こんな風にできていたら、もっと初めての子育てを二人で楽しめたかなあーと反省……。ちょっとのことなんだけど、心に余裕がないとできなかったことがたくさんあったなあーと、この育児日記を見て、切ない気分と共に思い出しました。

編集委員Tの育児日記 作：糸原律子 W



フィフティ・フィフティから フィフティ・フィフティは、東久留米市男女平等推進センターの愛称です

男女平等推進センター (フィフティ・フィフティ)

■所在地 〒203-8555 東久留米市本町三丁目3番1号(市役所2階) TEL: 042-472-0061 FAX: 042-472-1131 メール: fifty2@city.higashikurume.lg.jp ■開館時間 午前9時～午後5時

■休館日 土曜日・日曜日・祝日 年末年始(12月29日～翌年1月3日) ■事業内容 講座開催/情報提供 女性弁護士による法律相談/女性の悩みごと相談 男女共同参画情報誌『ときめき』の発行 図書コーナー/交流スペース



フィフティ・フィフティ

■専門相談のご案内

ひとりで悩まず、ご相談ください。

相談無料 秘密厳守

女性弁護士による法律相談 女性問題に詳しい女性弁護士が相談に応じます。(年度内1人1回限定)

女性の悩みごと相談 (女性限定) 親子の関係、恋人からの暴力、その他の人間関係や生きづらさなど、さまざまな悩みについて、女性カウンセラーが相談に応じます。

\*日程の詳細は毎月広報15日号(1月は7日号)に掲載。 \*どちらの相談も予約制(先着順)です。 \*詳しくはフィフティ・フィフティにお問い合わせください。

Table with columns for month, day, and consultation time slots (9:30-12:30, 10:30-15:30, 12:30-16:30).

「ときめき」は

年2回発行。公募の市民による編集委員6人が企画編集しています。

フィフティ・フィフティ、市役所、東久留米駅、図書館および生涯学習センターほか、市内各所で入手できます。最新号とバックナンバーは市のHPでもご覧いただけます。

内容についてのご意見・ご感想は左のQRコードから。または市民部生活文化課かフィフティ・フィフティ宛てにお寄せください。



編集後記

- 焼けるというより焦げるような暑さだった今年の夏。アリとキリギリスの話思い出しては、正しい夏の過ごし方はキリギリスじゃないの?と思いながら仕事へ向かう毎日でした。(N)
● 男女平等を男性からの視点で見ると、社会的意識の部分で主に負担がかかっていることが分かりました。男女共同参画は女性だけのものではないことを知っていただけたらと思います。(T)
● 「長女はいいよな、僕は長男だから家を継がないといけない…」と愚痴られたことがあります。決められた形ではなく望む人が望むように生きられる社会であってほしいです。(W)
● 今回のアンケートは予想以上に心の中をご回答いただけて本当にありがたかったです。個人の問題は社会の問題であることを再確認。今はまさに「過渡期」だと実感しました。(H)
● 今号では市内の身近な方にアンケートをお願いしました。これを機に市民が編集委員を務める「ときめき」を知り、あわよくば関わりたいという方がいらしたら…お待ちしています!(M)
● すーっと前から『やさいのおうち』ファンです。今回の対談で榎本さんに直接お礼が言えてよかったです。特集アンケートご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。(K)